『土湯の森』で植生のモニタリング調査を実施

植生調査

澄みきった青空のもと、１０月７日（日）に最上川スキー場跡地でゲレンデ跡に生育している高木性樹木の樹種、本数を調べるモニタリング調査を行いました。

この調査は、スキー場跡地の自然推移ゾーンにおける植生の状況や森林再生ゾーンにおいて、８月９日に植生を回復させる取組の一つとして実施したススキ等の刈り払いの成果を把握し、実施計画の見直しに反映させていくために行ったものです。

山形大学農学部の皆さん

当日は、山形大学農学部の高橋教夫教授の指導のもと、大学生６名の協力をいただき調査しました。

調査プロットは、森林再生ゾーンで実施した刈り払い区及びその対照区、自然推移ゾーン２箇所の合計４箇所です（**図１参照**）。

調査プロットの面積は、４箇所とも10㎡（1m×10m）に設定しています。

また、調査方法は各調査プロットを１m四方のコドラートに分けてコドラート内に出現する高木性樹木の樹種、本数を苗高別に調査しました。

今回の調査では、調査プロット内に生育する高木性樹木の本数は、思いのほか少ない結果となりました（**写真１～４及び図２～５参照**）。

このことから、スキー場跡地は平成１２年以降、スキー場として使われていないものの、表層土が薄く、地盤も固い箇所が多いため、高木性樹木の侵入が難しいと思われました。

今後も森林再生ゾーンにおけるススキ等の刈り払いなどの取組と併せて引き続きモニタリングを行い、植生回復の取組を検証していくこととしています。

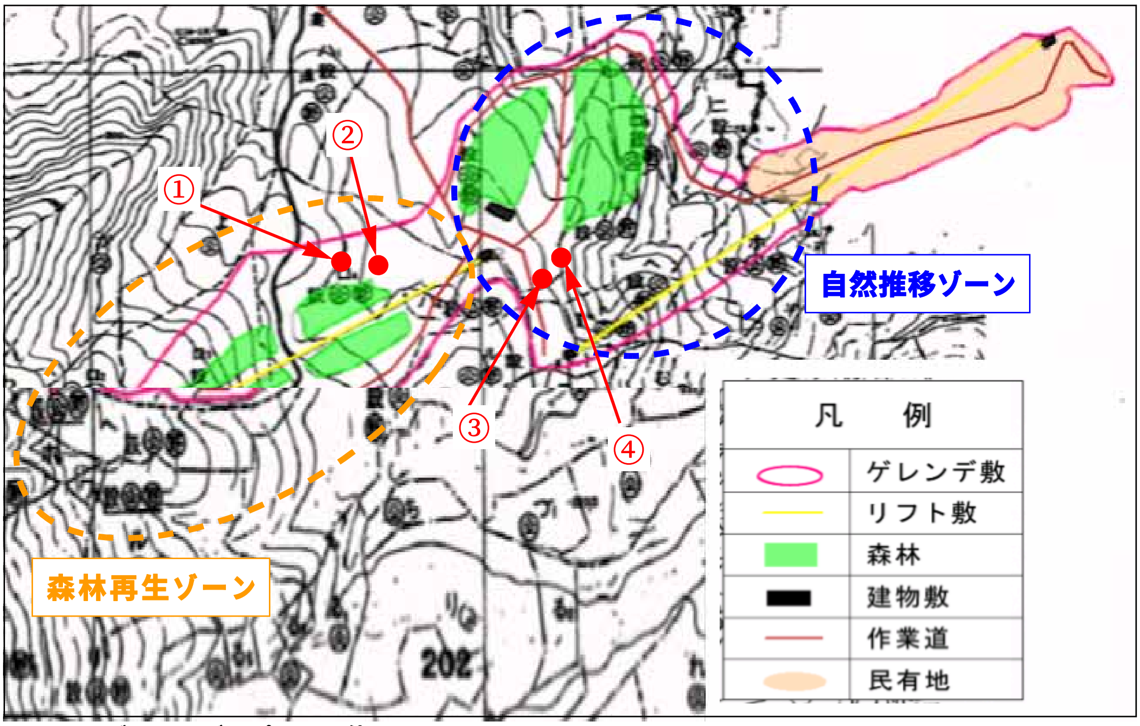

図１：ゾーニングとプロット位置

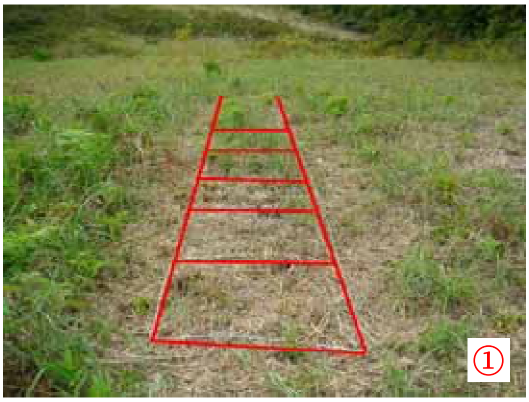

写真１：森林再生ｿﾞｰﾝ(刈払〔全刈〕区)

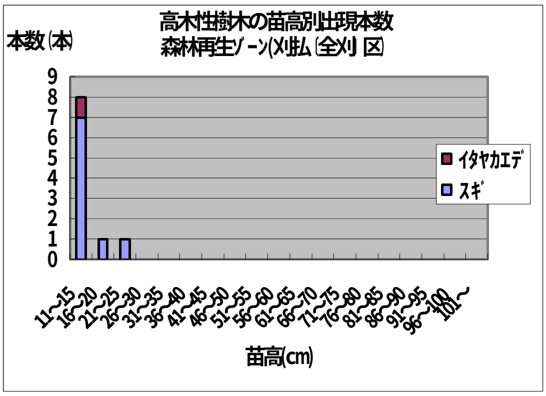

図２：森林再生ｿﾞｰﾝ(刈払〔全刈〕区)

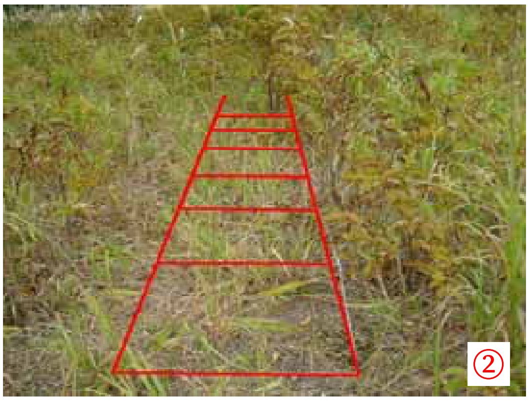

写真２：森林再生ゾーン（刈払対照区）

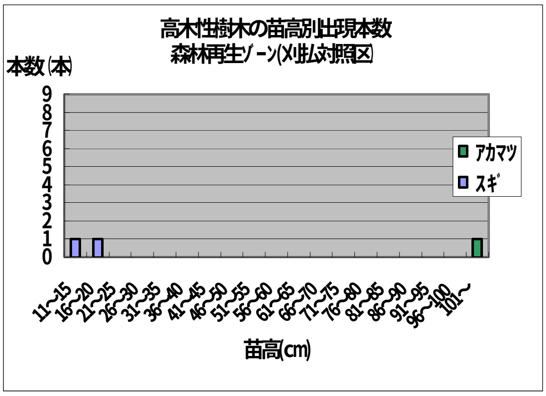

図３：森林再生ゾーン（刈払対照区）

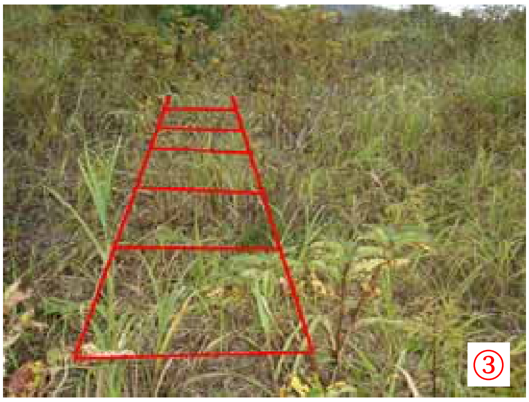

写真３：自然推移ゾーン（Ａ区）

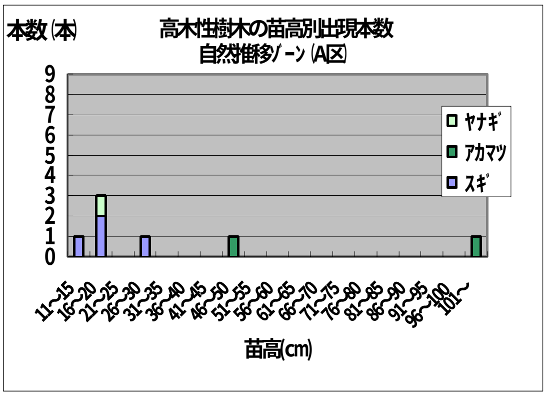

図４：自然推移ゾーン（Ａ区）

写真４：自然推移ゾーン（Ｂ区）

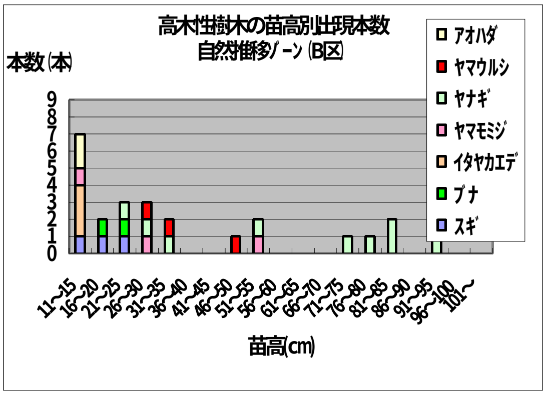

図５：自然推移ゾーン（Ｂ区）